

自産自消ができる国へ vol.80

『競合他社なんて存在しない』

文 西辻 一真 text by Kazuma Nishitsuji

私はマイファームを創業した時から、自然と人間の距離を再度近づけて、自然に内包される社会にしたいというこゝとで自産自消のある社会創りを提唱しています。そして、自然と人間の距離が離れると何が起こってくるのか、起こってきたのかをよく考えるようにしています。その距離が離れると「自然の速度に寄り添う生き方」「自然には勝てない」など大きな自然に対する無力さを忘れ、自分で時間をコントロールしようとしていく、自分で空間を作り出そうとしていく、と以前から考えていて、今もその認識は私の中では変わっていません。自然と離れるから、タイムリミットを設定して自然リスクというものから離れていく。この経済社会の動きと全く同じ形で現代の農業も進んでいます。しかし、最近新たなことに気づきました。

それは自然と人間の距離が離れていくと、人間はやがて人間を二項対立軸と捉えて競争を始めてしまう、という

ことでした。この人間と人間の競争がこの世界のひずみを生み出していて、宗教対立も政治対立も普段の私たちの生活でさえもその影響を受けています。スポーツの世界でさえも、本来は「自分との戦い」であるはずなのにいつの間にか相手との戦いになっていくことも見受けられます。相手を倒す、相手に勝つ、相手より優れていることを示す。これは相手が「自然」だとすると勝ち目はないので、自分がどう変わるか、自分の動きの先にどういう目的を置くのか、という話になってきます。

自然を相手に自分がどう変わるのか、自分の生き方に目的を置く社会を訪れることを切に願っているので、自産自

消がある社会を私は目指しています。最近よくマイファームのライバル会社でマイファームのあの部分がウィークポイントです、とかマイファームよりもここが優れています、とおっしゃる会社が見受けられますが、自然と人間の距離を縮める活動をしている同志の会社ですから、そこに気づいてもらって一緒にこの世界観を広められるような仲間としていつか活動できることを切に願っています。

自然に内包されるような社会創りは、私が死んでも次の世代にその活動が受け継がれ、いつかその思想が広まっていくまで歩みを止めることはきつくないのですから。



*Profile*  
82年、福井県生まれ。京都大学農学部卒。広告会社に勤務後、07年9月にマイファームを設立。都市部の耕作放棄地を体験農園として貸し出すビジネスを始める。  
株式会社マイファームの取り組みはこちら  
公式サイト: <http://myfarm.co.jp/>  
フェイスブック: <https://www.facebook.com/myfarm.koto>  
耕作放棄地を再生させる『体験農園マイファーム』: <http://myfarmer.jp/>  
耕作放棄地を耕す人を育てる『アグリイノベーション』: <https://agri-innovation.jp/>